



# 骨粗しょう症検診について

## 骨粗しょう症による骨折について

- ① 骨粗しょう症は図1のように骨がスカスカになって骨折しやすくなる病気です。特に、女性では女性ホルモンが急激に低下する閉経後に骨密度が低下し始めて(図2)、気づかいうちに骨粗しょう症が進行し、骨折しやすくなります。橈骨(手首)、上腕骨(肩)、脊椎(背中・腰)、大腿骨近位部(股関節)は特に骨折が発生しやすい部分です。
- ② 骨粗しょう症による骨折の中でも、大腿骨近位部骨折(股関節)は注意が必要です。骨折となると手術が必要になりますし、術後のリハビリにも長い期間がかかります。70代以降に急増し(図3)、要介護の原因となり、寿命も短くなることがわかっています。身長が低くなっている人、背中が丸くなってきた人、転倒などで骨折したことがある人は骨粗しょう症の可能性があるので、是非検診を受けてください。

図1 骨粗しょう症

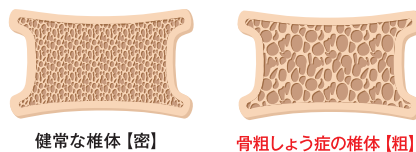


図2 年齢による骨量の変化

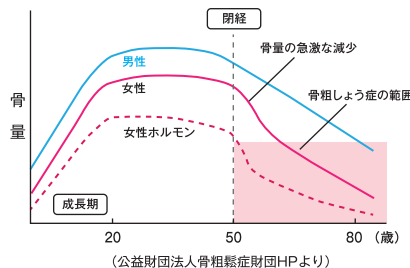
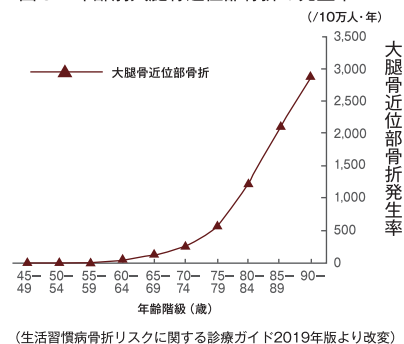


図3 年齢別大腿骨近位部骨折の発生率



## 骨粗しょう症検診の方法

- ① 一次検診(骨密度検査と問診)  
骨密度の検査はX線や超音波検査で、痛いものではありませんので気軽に検診を受けてください。骨密度が低いと判定された場合は、骨粗しょう症検診精密検査実施医療機関を受診してください(実施医療機関は巻末参照)。
- ② 精密検査実施医療機関での検査・診察  
患者さんが持参した骨密度検査の結果や問診票を参考に診察をします。生活指導の他、必要があれば薬物治療を行います。

## メッセージ

骨粗しょう症による骨折は後遺症を残しやすく、要介護の原因にもなりますので骨折の予防が大切です。現在、骨粗しょう症の薬物治療は大きく進歩して、骨密度を回復することができるようになりました。40才以上の方、基礎疾患があり心配な方、特に閉経後の方は検診を受けて、骨粗しょう症・骨折を予防しましょう。